

# 若年者から高齢者におけるファッションへの関心と外出着の着装基準の特徴 —ファッションと QOL に関する1万人調査研究プロジェクト—

## Characteristics Regarding Interest in Clothing and Criteria for Clothing Selection:

Research Project on Fashion and QOL in a Large-Scale Sample of 10,000 Subjects

安永 明智

Akitomo Yasunaga

### 要旨

本研究は、約1万人の大規模サンプルを用いて、若年者から高齢者におけるファッションへの関心及び外出着の着装基準の人口統計学的特徴に関する資料を提供することを目的とした。2017年1月、インターネット調査を用いて、ファッションとQOLに関する大規模調査を実施した。分析対象者は、20歳から79歳までの男女10,800名（男性5,400名、女性5,400名）であった。調査内容は、ファッションや着装に関する質問として、「自分のファッションへの関心」「友人や他人のファッションへの関心」「流行への関心」「外出着の着装基準」について、人口統計学的要因として、「性別」「年齢」「婚姻状況」「居住地域」「世帯収入」について尋ねた。結果から、性別、年齢、婚姻状況、居住地域、世帯収入等の人口統計学的要因の違いは、ファッションへの関心や外出着の着装基準の相違と関連していた。

●キーワード：大規模調査 (large sample study) / 着装基準 (criteria for clothing selection)  
ファッションへの関心 (interest in clothing)

### I. 目的

本研究の目的は、若年者から高齢者におけるファッションへの関心及び外出着の着装基準の人口統計学的特徴に関する基礎的資料を提供することである。具体的には、約1万人の大規模サンプルを用いて、「自分の服装への関心」「友人や他人の服装への関心」「流行への関心」「外出着の着装基準」の性、年齢、居住地域、経済状況別の特徴について分析した。我が国でも若年者から高齢者までを対象に、ファッションへの関心や着装基準の特徴について検討されてきた<sup>1-4)</sup>。しかし筆者が知る限り、我が国において、1万人以上の大規模サンプルを用いて、ファッションへの関心や着装基準の特徴を検討した研究は存在せず、本研究は、若年者から高齢者までのファッションへの意識、関心、行動の特徴を知る上で有益な資料を提供するものになると考えられる。尚、本研究は「ファッションとQOLに関する1万人調査研究」の一部である。

### II. 方法

#### II-1. 対象者と調査手続き

本研究の分析対象者は、20歳から79歳までの男女10,800名（男性5,400名、女性5,400名）である。2017

年1月、マイボイス株式会社（東京都千代田区）に依頼し、ファッションとQOLに関する大規模インターネット調査を実施した。実施に際しては、全国の登録されている約109万人のネットモニターから、性、年代別（20歳代から70歳代）の回収数が均等に、そして回収目標が10,000名になるように設定した。本研究の実施にあたっては、文化学園大学研究倫理委員会の承認を受けた。

#### II-2. 調査内容

ファッションへの関心は、「自分のファッションへの関心」「友人や他人のファッションへの関心」「流行への関心」について「非常に関心がある」「ある程度は関心がある」「あまり関心がない」「全く関心がない」の4件法で尋ねた。また外出着（本研究では特別なイベント等での外出を除き、日常生活において外出する時に着用する衣服と操作的に定義した）の着装基準について、高齢者版着装基準尺度<sup>5)</sup>を用いて評価した。本尺度は、19項目、4つの下位因子（個人的服装嗜好；7項目、流行；4項目、機能性；4項目、社会的服装規範；4項目）で構成されており、各質問項目に対して「全く重視しない（1点）」「あまり重視しない（2点）」「ある程度は重視す

る(3点)」「非常に重視する(4点)」の4件法で回答を求めた。4つの下位因子の合計得点が高いほど、その着基準を重視することを意味する。本尺度は高齢者用に開発されているが、その内容を検討した結果、若年者や中年者にも十分に適用可能であると判断した。各下位尺度に対して統計学的に信頼性の検定を実施した結果、性×年代の全ての区分で $\alpha$ 係数は.70を超えており、十分な内の一貫性を示した。対象者の人口統計学的要因は、性別、年齢、婚姻状況、居住地域、世帯収入について尋ねた。

### II-3. 統計分析

連続変数は平均値(標準偏差)、離散変数は人数(割合；%)で示した。分析は、3つのファッションへの関心及び外出着の4つの着基準について、人口統計学的

要因のカテゴリ別に平均値や割合を算出した。尚、今回の研究では、ファッションの特徴に関する基礎的資料の提供を目的としているため、それぞれの変数間の関係について統計学的解析を用いた検討は行っていない。

## III. 結果

### III-1. 自分の服装への関心の特徴

表1は、自分の服装への関心の人口統計学的要因別の特徴を示したものである。女性は男性と比較して、自分の服装に「非常に関心がある」と回答した割合が、2倍以上の高い値を示した。一方、「全く関心がない」と回答した割合は、男性が女性よりも3倍以上高かった。年代別に見ると、「非常に関心がある」と回答した割合は、男女ともに20代が最も高い値を、逆に男性では60代、女性では40代が最も低い値を示した。一方、「全く関心

表1. 自分の服装への関心の人口統計学的要因別の特徴

	男性					女性				
	人数	全く関心がない	あまり関心がない	ある程度は関心がある	非常に関心がある	人数	全く関心がない	あまり関心がない	ある程度は関心がある	非常に関心がある
性別	5400	509 (9.4)	1997 (37.0)	2397 (44.4)	497 (9.2)	5400	164 (3.0)	899 (16.6)	3148 (58.3)	1189 (22.0)
年代										
20代	900	113 (12.6)	299 (33.2)	361 (40.1)	127 (14.1)	900	60 (6.7)	176 (19.6)	434 (48.2)	230 (25.6)
30代	900	124 (13.8)	361 (40.1)	313 (34.8)	102 (11.3)	900	38 (4.2)	182 (20.2)	493 (54.8)	187 (20.8)
40代	900	114 (12.7)	347 (38.6)	366 (40.7)	73 (8.1)	900	31 (3.4)	196 (21.8)	503 (55.9)	170 (18.9)
50代	900	68 (7.6)	392 (43.6)	375 (41.7)	65 (7.2)	900	20 (2.2)	162 (18.0)	529 (58.8)	189 (21.0)
60代	900	53 (5.9)	330 (36.7)	460 (51.1)	57 (6.3)	900	12 (1.3)	90 (10.0)	596 (66.2)	202 (22.4)
70代	900	37 (4.1)	268 (29.8)	522 (58.0)	73 (8.1)	900	3 (0.3)	93 (10.3)	593 (65.9)	211 (23.4)
婚姻状況										
既婚	3050	187 (6.1)	1125 (36.9)	1474 (48.3)	264 (8.7)	3411	74 (2.2)	509 (14.9)	2067 (60.6)	761 (22.3)
未婚・離死別	2350	322 (13.7)	872 (37.1)	923 (39.3)	233 (9.9)	1989	90 (4.5)	390 (19.6)	1081 (54.3)	428 (21.5)
居住地域										
北海道	258	21 (8.1)	106 (41.1)	108 (41.9)	23 (8.9)	299	8 (2.7)	59 (19.7)	180 (60.2)	52 (17.4)
東北	271	21 (7.7)	112 (41.3)	113 (41.7)	25 (9.2)	249	9 (3.6)	46 (18.5)	145 (58.2)	49 (19.7)
関東	2339	218 (9.3)	813 (34.8)	1080 (46.2)	228 (9.7)	2324	70 (3.0)	346 (14.9)	1358 (58.4)	550 (23.7)
北陸	167	25 (15.0)	62 (37.1)	62 (37.1)	18 (10.8)	149	5 (3.4)	33 (22.1)	87 (58.4)	24 (16.1)
中部	600	57 (9.5)	235 (39.2)	264 (44.0)	44 (7.3)	530	24 (4.5)	93 (17.5)	309 (58.3)	104 (19.6)
近畿	1019	95 (9.3)	382 (37.5)	450 (44.2)	92 (9.0)	1096	27 (2.5)	178 (16.2)	643 (58.7)	248 (22.6)
中国	256	26 (10.2)	86 (33.6)	119 (46.5)	25 (9.8)	265	5 (1.9)	49 (18.5)	155 (58.5)	56 (21.1)
四国	143	12 (8.4)	66 (46.2)	57 (39.9)	8 (5.6)	116	4 (3.4)	26 (22.4)	65 (56.0)	21 (18.1)
九州	347	34 (9.8)	135 (38.9)	144 (41.5)	34 (9.8)	372	12 (3.2)	69 (18.5)	206 (55.4)	85 (22.8)
世帯収入										
300万円未満	1170	152 (13.0)	482 (41.2)	464 (39.7)	72 (6.2)	1228	58 (4.7)	229 (18.6)	721 (58.7)	220 (17.9)
300～600万円未満	2157	207 (9.6)	810 (37.6)	966 (44.8)	174 (8.1)	2201	63 (2.9)	377 (17.5)	1319 (61.1)	442 (20.5)
600～900万円未満	1155	97 (8.4)	410 (35.5)	525 (45.5)	123 (10.6)	1175	26 (2.3)	198 (17.1)	683 (59.1)	268 (23.2)
900～1200万円未満	575	32 (5.6)	193 (33.6)	281 (48.9)	69 (12.0)	510	12 (2.1)	65 (11.3)	275 (47.8)	158 (27.5)
1200万円以上	343	21 (6.1)	102 (29.7)	161 (46.9)	59 (17.2)	286	5 (1.5)	30 (8.7)	150 (43.7)	101 (29.4)

数値は、人数(割合；%)

がない」と回答した割合は、男性では30代、女性では20代が最も高く、逆に男女ともに70代が最も低かった。婚姻状況別に見ると、男性では未婚・離死別者、女性では既婚者が、それぞれ「非常に興味がある」と回答した割合が高かった。一方、「全く興味がない」と回答した割合は、男女ともに未婚・離死別者が高かった。居住地域別に見ると、「非常に興味がある」と回答した割合が最も高かった地域は、男性では北陸、女性では関東、逆に最も低かった地域は、男性では四国、女性では北陸であった。一方、「全く興味がない」と回答した割合が最も高かった地域は、男性では北陸、女性では中部、逆に最も低かった地域は、男性では東北、女性では中国であった。世帯収入別に見ると、「非常に興味がある」と回答した割合は、男女ともに1200万円以上が最も高く、300万円未満が最も低かった。一方、「全く興味がない」

と回答した割合は、男女ともに300万円未満が最も高く、逆に男性では900～1200万円未満、女性では1200万円以上が最も低い値を示した。

### Ⅲ-2. 友人や他人の服装への関心の特徴

表2は、友人や他人の服装への関心の人口統計学的要因別の特徴を示したものである。女性は男性と比較して、友人や他人の服装に「非常に興味がある」と回答した割合が、2倍以上の高い値を示した。一方、「全く興味がない」と回答した割合は、男性が女性よりも2倍以上高かった。年代別に見ると、「非常に興味がある」と回答した割合は、男女ともに20代が最も高い値を、逆に男女ともに70代が最も低い値を示した。一方、「全く興味がない」と回答した割合は、男性で30代、女性で20代が最も高く、逆に男女ともに70代が最も低かった。

表2. 友人や他人の服装への関心の人口統計学的要因別の特徴

	男性					女性				
	人数	全く 興味がない	あまり 興味がない	ある程度は 興味がある	非常に 興味がある	人数	全く 興味がない	あまり 興味がない	ある程度は 興味がある	非常に 興味がある
性別	5400	850 (15.7)	2756 (51.0)	1628 (30.1)	166 (3.1)	5400	343 (6.4)	1764 (32.7)	2945 (54.5)	348 (6.4)
年代										
20代	900	160 (17.8)	355 (39.4)	322 (35.8)	63 (7.0)	900	85 (9.4)	260 (28.9)	451 (50.1)	104 (11.6)
30代	900	182 (20.2)	398 (44.2)	271 (30.1)	49 (5.4)	900	60 (6.7)	317 (35.2)	452 (50.2)	71 (7.9)
40代	900	171 (19.0)	464 (51.6)	244 (27.1)	21 (2.3)	900	72 (8.0)	325 (36.1)	452 (50.2)	51 (5.7)
50代	900	129 (14.3)	515 (57.2)	242 (26.9)	14 (1.6)	900	65 (7.2)	285 (31.7)	503 (55.9)	47 (5.2)
60代	900	117 (13.0)	506 (56.2)	266 (29.6)	11 (1.2)	900	31 (3.4)	281 (31.2)	549 (61.0)	39 (4.3)
70代	900	91 (10.1)	518 (57.6)	283 (31.4)	8 (0.9)	900	30 (3.3)	296 (32.9)	538 (59.8)	36 (4.0)
婚姻状況										
既婚	3050	362 (11.9)	1650 (54.1)	961 (31.5)	77 (2.5)	3411	174 (5.1)	1070 (31.4)	1952 (57.2)	215 (6.3)
未婚・離死別	2350	488 (20.8)	1106 (47.1)	667 (28.4)	89 (3.8)	1989	169 (8.5)	694 (34.9)	993 (49.9)	133 (6.7)
居住地域										
北海道	258	37 (14.3)	138 (53.5)	78 (30.2)	5 (1.9)	299	23 (7.7)	100 (33.4)	168 (56.2)	8 (2.7)
東北	271	37 (13.7)	141 (52.0)	85 (31.4)	8 (3.0)	249	15 (6.0)	83 (33.3)	137 (55.0)	14 (5.6)
関東	2339	369 (15.8)	1165 (49.8)	719 (30.7)	86 (3.7)	2324	146 (6.3)	726 (31.2)	1290 (55.5)	162 (7.0)
北陸	167	34 (20.4)	81 (48.5)	48 (28.7)	4 (2.4)	149	9 (6.0)	56 (37.6)	74 (49.7)	10 (6.7)
中部	600	101 (16.8)	319 (53.2)	168 (28.0)	12 (2.0)	530	43 (8.1)	181 (34.2)	271 (51.1)	35 (6.6)
近畿	1019	153 (15.0)	528 (51.8)	308 (30.2)	30 (2.9)	1096	66 (6.0)	337 (30.7)	626 (57.1)	67 (6.1)
中国	256	48 (18.8)	118 (46.1)	83 (32.4)	7 (2.7)	265	14 (5.3)	86 (32.5)	142 (53.6)	23 (8.7)
四国	143	18 (12.6)	82 (57.3)	38 (26.6)	5 (3.5)	116	7 (6.0)	50 (43.1)	54 (46.6)	5 (4.3)
九州	347	53 (15.3)	184 (53.0)	101 (29.1)	9 (2.6)	372	20 (5.4)	145 (39.0)	183 (49.2)	24 (6.5)
世帯収入										
300万円未満	1170	247 (21.1)	617 (52.7)	277 (23.7)	29 (2.5)	1228	111 (9.0)	448 (36.5)	609 (49.6)	60 (4.9)
300～600万円未満	2157	342 (15.9)	1125 (52.2)	641 (29.7)	49 (2.3)	2201	131 (6.0)	724 (32.9)	1218 (55.3)	128 (5.8)
600～900万円未満	1155	165 (14.3)	585 (50.6)	363 (31.4)	42 (3.6)	1175	57 (4.9)	365 (31.1)	666 (56.7)	87 (7.4)
900～1200万円未満	575	63 (11.0)	264 (45.9)	220 (38.3)	28 (4.9)	510	28 (5.5)	153 (30.0)	289 (56.7)	40 (7.8)
1200万円以上	343	33 (9.6)	165 (48.1)	127 (37.0)	18 (5.2)	286	16 (5.6)	74 (25.9)	163 (57.0)	33 (11.5)

数値は、人数（割合；％）

婚姻状況別に見ると、男女ともに未婚・離死別者が、「非常に関心がある」と回答した割合が高かった。同様に「全く関心がない」についても、男女ともに未婚・離死別者が高い割合を示した。居住地域別に見ると、「非常に関心がある」と回答した割合が高かった地域は、男性では関東、女性では中国であった。逆に最も少なかった地域は、男女ともに北海道であった。一方、「全く関心がない」と回答した割合が最も高かった地域は、男性では北陸、女性では中部、逆に最も少なかった地域は、男性では四国、女性では中国であった。世帯収入別に見ると、「非常に関心がある」と回答した割合は、男女ともに1200万円以上が最も高く、逆に男性では300～600万円未満、女性では300万円未満が最も低かった。一方、「全く関心がない」と回答した割合は、男女ともに300万円未満の者が最も高い値を、逆に男性では1200

万円以上、女性では600～900万円未満が最も低い値を示した。

### Ⅲ-3. 流行への関心の特徴

表3は、流行への関心の人口統計学的要因別の特徴を示したものである。女性は男性と比較して、流行に「非常に関心がある」と回答した割合が、2倍近く高い値を示した。一方、「全く関心がない」と回答した割合は、男性が女性よりも2倍以上高かった。年代別に見ると、「非常に関心がある」と回答した割合は、男女ともに20代が最も高い値を、逆に男女ともに70代が最も低い値を示した。一方、「全く関心がない」と回答した割合は、男性で30代、女性で20代が最も高く、逆に男女ともに70代が最も低かった。婚姻状況別に見ると、男女ともに未婚・離死別者が「非常に関心がある」と回答した割

表3. 流行への関心の人口統計学的要因別の特徴

	男性					女性				
	人数	全く関心がない	あまり関心がない	ある程度は関心がある	非常に関心がある	人数	全く関心がない	あまり関心がない	ある程度は関心がある	非常に関心がある
性別	5400	1472 (27.3)	2673 (49.5)	1125 (20.8)	130 (2.4)	5400	609 (11.3)	2111 (39.1)	2431 (45.0)	249 (4.6)
年代										
20代	900	253 (28.1)	347 (38.6)	254 (28.2)	46 (5.1)	900	136 (15.1)	356 (39.6)	344 (38.2)	64 (7.1)
30代	900	267 (29.7)	378 (42.0)	220 (24.4)	35 (3.9)	900	112 (12.4)	337 (37.4)	400 (44.4)	51 (5.7)
40代	900	248 (27.6)	458 (50.9)	171 (19.0)	23 (2.6)	900	127 (14.1)	365 (40.6)	363 (40.3)	45 (5.0)
50代	900	238 (26.4)	487 (54.1)	160 (17.8)	15 (1.7)	900	94 (10.4)	327 (36.3)	445 (49.4)	34 (3.8)
60代	900	241 (26.8)	495 (55.0)	157 (17.4)	7 (0.8)	900	74 (8.2)	334 (37.1)	461 (51.2)	31 (3.4)
70代	900	225 (25.0)	508 (56.4)	163 (18.1)	4 (0.4)	900	66 (7.3)	392 (43.6)	418 (46.4)	24 (2.7)
婚姻状況										
既婚	3050	719 (23.6)	1661 (54.5)	614 (20.1)	56 (1.8)	3411	333 (9.8)	1281 (37.6)	1649 (48.3)	148 (4.3)
未婚・離死別	2350	753 (32.0)	1012 (43.1)	511 (21.7)	74 (3.1)	1989	276 (13.9)	830 (41.7)	782 (39.3)	101 (5.1)
居住地域										
北海道	258	88 (34.1)	111 (43.0)	54 (20.9)	5 (1.9)	299	32 (10.7)	121 (40.5)	138 (46.2)	8 (2.7)
東北	271	69 (25.5)	142 (52.4)	53 (19.6)	7 (2.6)	249	30 (12.0)	101 (40.6)	104 (41.8)	14 (5.6)
関東	2339	631 (27.0)	1151 (49.2)	491 (21.0)	66 (2.8)	2324	268 (11.5)	888 (38.2)	1050 (45.2)	118 (5.1)
北陸	167	47 (28.1)	81 (48.5)	36 (21.6)	3 (1.8)	149	19 (12.8)	61 (40.9)	65 (43.6)	4 (2.7)
中部	600	172 (28.7)	305 (50.8)	114 (19.0)	9 (1.5)	530	62 (11.7)	206 (38.9)	233 (44.0)	29 (5.5)
近畿	1019	261 (25.6)	518 (50.8)	214 (21.0)	26 (2.6)	1096	114 (10.4)	417 (38.0)	519 (47.4)	46 (4.2)
中国	256	74 (28.9)	116 (45.3)	58 (22.7)	8 (3.1)	265	29 (10.9)	106 (40.0)	118 (44.5)	12 (4.5)
四国	143	35 (24.5)	72 (50.3)	36 (25.2)	0 (0.0)	116	15 (12.9)	48 (41.4)	53 (45.7)	0 (0.0)
九州	347	95 (27.4)	177 (51.0)	69 (19.9)	6 (1.7)	372	40 (10.8)	163 (43.8)	151 (40.6)	18 (4.8)
世帯収入										
300万円未満	1170	421 (36.0)	525 (44.9)	206 (17.6)	18 (1.5)	1228	195 (15.9)	532 (43.3)	453 (36.9)	48 (3.9)
300～600万円未満	2157	589 (27.3)	1109 (51.4)	423 (19.6)	36 (1.7)	2201	243 (11.0)	878 (39.9)	1003 (45.6)	77 (3.5)
600～900万円未満	1155	281 (24.3)	581 (50.3)	256 (22.2)	37 (3.2)	1175	109 (9.3)	417 (35.5)	587 (50.0)	62 (5.3)
900～1200万円未満	575	113 (19.7)	286 (49.7)	155 (27.0)	21 (3.7)	510	43 (8.4)	186 (36.5)	245 (48.0)	36 (7.1)
1200万円以上	343	68 (19.8)	172 (50.1)	85 (24.8)	18 (5.2)	286	19 (6.6)	98 (34.3)	143 (50.0)	26 (9.1)

数値は、人数（割合；％）

合が高かった。同様に「全く関心がない」の回答は、男女ともに未婚・離死別者が高い割合を示した。居住地域別で見ると、「非常に興味がある」と回答した割合は、男性では中国、女性では東北が最も高く、逆に男女ともに四国が最も低かった。一方、「全く関心がない」と回答した割合が最も高かった地域は、男性では北海道、女性では四国、逆に最も低かった地域は、男性では四国、女性では近畿であった。世帯収入別で見ると、「非常に興味がある」と回答した割合は、男女ともに1200万円以上が最も高く、逆に男性では300万円未満、女性では300～600万円未満が最も低かった。一方、「全く関心がない」と回答した割合は、男女ともに300万円未満が最も高い値を、逆に男性では900～1200万円未満、女性では1200万円以上が最も低い値を示した。

### Ⅲ-4. 外出着の着装基準の特徴の性差

男性は女性と比較して、着装基準の「個人的服装嗜好」「流行」「機能性」「社会的服装規範」の全てにおいて、高い得点を示した（表4、5）。

### Ⅲ-5. 男性における外出着の着装基準の特徴

表4は、男性における外出着の着装基準の人口統計学的要因別の特徴を示したものである。年代別に見ると、「個人的服装嗜好」「機能性」「社会的服装規範」に関しては、70代が最も高い得点を示した。また「流行」は、20代が最も得点が高かった。一方、「個人的服装嗜好」は30代と40代、「流行」は60代、「機能性」は20代と30代、「社会的服装規範」は40代が、それぞれ最も得点が低かった。婚姻状況別に見ると、既婚者が、未婚・離死別者と比べて、「個人的服装嗜好」「機能性」「社会

表4. 男性における外出着の着装基準の人口統計学的要因別の特徴

	人数	個人的 服装嗜好	流行	機能性	社会的 服装規範
性別	5400	19.2 (3.6)	8.8 (2.4)	11.5 (2.3)	9.9 (2.3)
年代					
20代	900	18.8 (4.3)	9.2 (2.7)	11.1 (2.7)	9.9 (2.5)
30代	900	18.7 (3.9)	9.0 (2.6)	11.1 (2.4)	9.7 (2.5)
40代	900	18.7 (3.8)	8.8 (2.5)	11.4 (2.5)	9.4 (2.4)
50代	900	19.2 (3.3)	8.7 (2.3)	11.5 (2.1)	9.8 (2.1)
60代	900	19.7 (3.2)	8.5 (2.2)	11.8 (2.0)	10.0 (2.1)
70代	900	20.2 (2.9)	8.6 (2.1)	12.0 (1.8)	10.2 (1.9)
婚姻状況					
既婚	3050	19.6 (3.3)	8.8 (2.3)	11.6 (2.1)	10.0 (2.1)
未婚・離死別	2350	18.8 (4.0)	8.8 (2.6)	11.4 (2.5)	9.6 (2.4)
居住地域					
北海道	258	19.4 (3.6)	8.8 (2.5)	11.6 (2.1)	9.7 (2.3)
東北	271	19.0 (3.8)	8.9 (2.3)	11.4 (2.3)	9.8 (2.3)
関東	2339	19.3 (3.8)	8.8 (2.5)	11.5 (2.3)	9.9 (2.3)
北陸	167	19.3 (3.5)	8.9 (2.4)	11.3 (2.3)	9.8 (2.1)
中部	600	19.1 (3.4)	8.8 (2.4)	11.5 (2.2)	9.8 (2.2)
近畿	1019	19.2 (3.5)	8.7 (2.4)	11.5 (2.2)	9.9 (2.2)
中国	256	19.1 (3.9)	8.8 (2.4)	11.5 (2.4)	10.0 (2.4)
四国	143	19.0 (3.3)	8.7 (2.2)	11.6 (2.3)	9.7 (2.2)
九州	347	19.0 (3.7)	8.6 (2.4)	11.3 (2.3)	9.6 (2.3)
世帯収入					
300万円未満	1170	18.5 (4.0)	8.4 (2.5)	11.4 (2.5)	9.5 (2.5)
300～600万円未満	2157	19.2 (3.4)	8.7 (2.4)	11.5 (2.2)	9.9 (2.1)
600～900万円未満	1155	19.5 (3.4)	9.0 (2.4)	11.5 (2.2)	10.0 (2.2)
900～1200万円未満	575	19.4 (3.8)	9.2 (2.4)	11.4 (2.3)	10.1 (2.3)
1200万円以上	343	20.2 (3.7)	9.2 (2.5)	11.4 (2.3)	10.3 (2.3)

数値は、平均値（標準偏差）

的服装規範」において高い得点を示した。居住地域別に見ると、「個人的服装嗜好」は北海道、「流行」は東北と北陸、「機能性」は北海道と四国、「社会的規範」は中国が、それぞれ最も高い得点を示したが、居住地域別の4つの着装基準の得点の差はわずかであった。世帯収入別に見ると、「個人的服装嗜好」と「社会的規範」は1200万円以上、「流行」は900～1200万円未満と1200万円以上が、それぞれ最も高い得点を示した。一方、「個人的服装嗜好」「流行」「社会的服装規範」は、300万円未満が最も得点が低かった。「機能性」については、年代別の得点の差はほとんど示されなかった。

### Ⅲ-6. 女性における外出着の着装基準の特徴

表5は、女性における外出着の着装基準の人口統計学的要因別の特徴を示したものである。年代別に見ると、

「個人的服装嗜好」「流行」「機能性」「社会的服装規範」の全てにおいて、70代が最も高い得点を、逆に20代が最も低い得点を示した。また既婚者は、未婚・離死別者と比較して、全ての得点が高かった。居住地域別に見ると、「個人的服装嗜好」は関東、「流行」と「社会的規範」は近畿、「機能性」は九州が、それぞれ最も高い得点を示したが、居住地域別の着装基準の4つの下位尺度得点の差はわずかであった。世帯収入別に見ると、「個人的服装嗜好」「流行」「社会的規範」は、1200万円以上が最も得点が高く、300万円未満が最も得点が低かった。「機能性」については、年代別の得点の差はわずかであった。

### Ⅳ. 結語

本研究は、約1万人の大規模サンプルを用いて、若年

表5. 女性における外出着の着装基準の人口統計学的要因別の特徴

	人数	個人的 服装嗜好	流行	機能性	社会的 服装規範
性別	5400	21.0 (3.2)	9.4 (2.3)	12.4 (2.1)	10.4 (2.0)
年代					
20代	900	20.3 (3.7)	9.1 (2.6)	11.7 (2.4)	10.0 (2.3)
30代	900	20.6 (3.4)	9.4 (2.5)	12.3 (2.3)	10.4 (2.1)
40代	900	20.7 (3.2)	9.2 (2.4)	12.5 (2.1)	10.1 (2.0)
50代	900	21.2 (3.2)	9.6 (2.1)	12.7 (2.0)	10.4 (2.0)
60代	900	21.4 (2.7)	9.7 (2.1)	12.7 (1.9)	10.5 (1.8)
70代	900	21.6 (3.0)	9.8 (2.2)	12.8 (1.9)	10.7 (1.8)
婚姻状況					
既婚	3411	21.1 (3.2)	9.5 (2.3)	12.5 (2.1)	10.5 (2.0)
未婚・離死別	1989	20.8 (3.4)	9.3 (2.4)	12.3 (2.3)	10.2 (2.1)
居住地域					
北海道	299	20.3 (2.9)	9.2 (2.2)	12.4 (2.2)	10.0 (2.0)
東北	249	20.5 (3.3)	9.2 (2.3)	12.4 (2.2)	10.2 (2.0)
関東	2324	21.2 (3.3)	9.5 (2.3)	12.5 (2.1)	10.4 (2.1)
北陸	149	20.3 (2.9)	9.3 (2.1)	12.3 (1.9)	10.4 (1.9)
中部	530	20.7 (3.3)	9.4 (2.4)	12.4 (2.1)	10.4 (2.0)
近畿	1096	21.1 (3.2)	9.6 (2.3)	12.5 (2.1)	10.5 (2.0)
中国	265	20.7 (3.2)	9.2 (2.4)	12.1 (2.3)	10.2 (1.9)
四国	116	20.6 (3.2)	9.3 (2.5)	12.4 (2.3)	10.3 (2.3)
九州	372	20.9 (3.3)	9.3 (2.4)	12.6 (2.2)	10.4 (2.1)
世帯収入					
300万円未満	1228	20.5 (3.3)	9.1 (2.4)	12.6 (2.3)	10.2 (2.2)
300～600万円未満	2201	20.8 (3.1)	9.3 (2.3)	12.4 (2.1)	10.3 (2.0)
600～900万円未満	1175	21.2 (3.1)	9.6 (2.3)	12.5 (2.1)	10.5 (1.9)
900～1200万円未満	510	21.6 (3.2)	9.8 (2.3)	12.4 (2.1)	10.5 (1.9)
1200万円以上	286	22.0 (3.7)	10.2 (2.5)	12.3 (2.1)	10.7 (2.2)

数値は、平均値（標準偏差）

者から高齢者までのファッションへの関心及び外出着の着基準の特徴を資料として提示した。今後は、統計学的解析を含めて、ファッションや着基準の特徴に関して詳細な分析を行っていく。更に、ファッションへの関心や着基準の特徴が、人々のQOLにどのような影響を与えるのかについて検討していくことを課題とした。

#### 利益相反性

本研究に関連する利益相反性は無い。

#### 謝辞

本研究の実施にあたっては、文化学園大学の小柴朋子教授、申恩泳教授、砂長谷由香教授、高木陽子教授、柳田佳子教授、渡邊秀俊教授に、多くの有益なご助言を戴いた。また本研究は「文化学園大学ファッション心理学研究資金（A）」の支援を受けている。ここに記して感謝の意を表す。

#### 文献

- 1) 大枝近子, 佐藤悦子, 高岡朋子; 若者のファストファッション意識に関する調査, 日本家政学会誌, 64, pp. 645-653 (2013)
- 2) 内藤章江, 小林茂; 着基準に対する着行動要因の影響, 繊維製品消費科学, 42, pp.743-751 (2011)
- 3) 安永明智, 野口京子; ファッションへの関心と着行動に関する基礎的調査研究. - 性別、年齢、主観的経済状況、性格による差の検討 -, ファッションビジネス学会論文誌, 17, pp.129-137 (2012)
- 4) Yasunaga A, Yaguchi K, Noguchi K; Interest in and standard of selection of clothing related to quality of life in older Japanese adults: Sex, age, and physical function differences, The Japanese Journal of Health Psychology, 27, pp.103-112 (2014)
- 5) 田中優, 秋山学, 泉加代子, 上野裕子, 西川正之, 吉川聡; 高齢者の自律と着行動に関する研究—着基準重視と関連する要因の検討—, 繊維製品消費科学, 39, pp.716-722 (1998)